



### 家宝へレゲ絨毯

〜チュウリップとへレゲ絨毯〜

今から12年前の2007年、「トルコ15日間の旅」に参加した。それが小振りではある1つの国に連続15日間というのは初めて。それでもトルコの西側半分の旅だった。特別にトルコを選んだ訳ではなく、参加費が他国へのツアーに比べて安かったからだ。

さて、仕事関係でよく海外の旅をする長女から、オランダの土産から、オランダの土産今年東京の国立新美

術館で「トルコ至宝展・チュウリップの宮殿トプカプの美」と題した展覧会が開かれており、東京への旅を計画したが、東京の娘の都合で実現しなかった。同じものが7月28日まで京都で開催されるのでそれを見に行く予定である。

ところで、どこで知ったかは記憶になが「トルコへレゲ絨毯(じゅうたん)」が有名だ。2007年の旅でへレゲ絨工場の見学があつた。



ブルーモスクの裏側にトプカプ宮殿がある

へレゲ絨毯の由来は1891年、オスマントルコの王様の命令でイスタンブールの南のへレゲという町に絨毯職人が集められ、世界で最高の細かさの絨毯が生産されることになったらしい。絨毯の図柄は花模様で、その中の一つにチュウリップの柄のものもあつた。

絨工場の見学はトルコのお酒の試飲の中で行われたが、いくら良い物と判つても値段が高く、土産として持ちかえりにくいので誰一人買う人はいなかった。酒の勢も、トルコの旅はこの絨毯のおかげで特に思

ものを買おうと話したのが運のつき。結局工場価格50万円のへレゲ絨毯を買う結果になったのである。

職人が集められ、世界で最高の細かさの絨毯が生産されることになったらしい。絨毯の図柄は花模様で、その中の一つにチュウリップの柄のものもあつた。

間違いなく工場で見えたものという証拠に絨毯の裏にサインをしたものが後日自宅に送られて来た。写真のチュウリップ模様の足拭き絨毯はサービスとしてプレゼントされたものだ。

高年齢になり、もうへレゲ絨毯事件のようなことを起こすこともなくなつたが、気持ちの持ち方だけは前向きに冒険心を生きていきたいと思う。

分不相応なものを買ったとも思ったが、他人に迷惑をかけた訳でもなく、43年間働いた直後の旅で買い求めたものとして今もこの絨毯を大切に使っている

オスマントルコ時代を思い出させるトルコ、写真のブルーモスクをはじめ色んな歴史を持つ。この国の軍艦が和歌山県沖で遭難し、それを助けたことから今も親日国。チュウリップのトプカプ宮殿をはじめとする「トルコ至宝展」を楽しむにしているのである。



チュウリップの花柄の絨毯の足拭き

ら私が安い小さな

今まで旅した中で